

# ふるさと 歳時記



佐伯市加茂地区の塔  
平成十七年一月二十日

## 大分県石造美術研究会来る

一行五十四名をお迎えして「上浦・佐伯」地区の現地研究会が、去る一月三十日に行われました。曉風の滝→豊後二見浦→毛利家墓所→堅田街道（石打の石幢・府坂大川庵の石幢・市福所の潜龍塔・西野のお塔）→上岡の十三重塔（県指定有形文化財）

大型バス十時三ノ丸到着

「開会のつどい」藤浦教育長さんの歓迎の挨拶 案内者の紹介 資料配布 説明をすませ出発 上浦町へ→昼食はグリコで新鮮な魚料理に舌鼓

市福所では青山の婦人会の方々のお接待に参加者一同感謝 タクシーでかけた汐月三代吉さんにお久しぶりにお会いして涙の出る感動の場面となりました。

「十三重の塔」では現地で石造美術入門講座があり、すばらしい実のある研修でした。予定通り午後四時すべてを

終了、全員元気で帰途につきました。

ガイド 松村輝博・丸山寛明・清松

藤田喜代一・五十川千代見

高司良恵

担当責任 高司佐平

事務局次長山野義則氏よりのお便りの中から

今回の旅で感じたことは佐伯市会員の事前準備とりわけ資料の作成と青山地区の人々による「ぜんざい」等のお接待には、心の美しさ 人の温かさを実感させられた旅でありました。

（文責 高司良恵）

## 城構えの石垣発見

直川村赤木の安藤兼夫さんから「城の石垣を発見した」と電話があり、三月十九日、延岡中世研究会の盛武・染矢両氏と吹原の現地を訪れた。

これまで建物に隠れて見えなかった石垣が、建物の解体であらわになったのを見て、兼夫さんは「吹原の冠者と



安藤兼夫さんと石垣



天徳寺薬師堂落慶式



潮谷寺厨子入阿弥陀如来像

呼ばれた佐伯惟勝の館跡ではないか」と推測しようだ。

石垣は四M程の高さで反り返っている。確かに一般民家の石積みとは異なっているが、室町時代まで遡れるものかどうか、近世鶴屋城の築城に関わった石工の技ではないだろうか。専門家の鑑定を期待したい。

赤木の安藤家は佐伯惟勝の時代に日州から来たと伝えられている。

### 天徳寺薬師堂の落慶

四月三日(日)下城天徳寺で第二十五世住職川野泰斉和尚の晋山式と薬師堂の落慶式が挙行された。

一昨年前任職原斉和尚が入寂され、次男の泰斉和尚が継承された。旧薬師堂は老朽化が進んだため建て替えられた。方形造り銅板葺きで、後ろの杉木立を背景に優美な姿が再現された。

### 潮谷寺で仏像の講演会

三月二十一日(月)潮谷寺本堂で県立歴史博物館の渡辺文雄氏が「仏像の種類とかたち」と題して講演された。特に佐伯地方の寺院と仏像について興味深い鑑定結果を示された。

- 潮谷寺阿弥陀三尊像・鎌倉中期
- 同前立阿弥陀如来像・鎌倉後期
- 同厨子入阿弥陀如来像・南北朝
- 善教寺阿弥陀三尊像・鎌倉中期
- 慈濟院阿弥陀如来像・平安後期
- 龍護寺千手観音立像・鎌倉中期他

## 佐伯姓のルーツを訪ねて

四月三〇日(土) 愛媛県松山市から佐伯則義さんが佐伯図書館に見えられた。氏は同県丹原町の出身者で、当家の墓地に「佐伯伊賀守小方惟義・鶴寿院殿：大居士・文明十一年八月：日」と青石に刻まれた元祖墓があるという。郵便局を退職したので佐伯家の由来について調べるため当地を訪れた。



上小倉磨崖石塔と佐伯則義氏

## 東京から臼坪紹魂所に墓参

五月四日(水) 笹良目出身で東京沖電気に勤務の岩崎政春さんが連休に帰郷され、沖電気社長小西氏の代参で招魂所を訪れた。

小西社長の曾祖父(石川県)は明治十年西南戦争のとき、陸軍兵卒としてこの地で戦死、その墓が招魂所にあるという。「招魂所墓碑調査書」を参考に墓石を捜し、拓本を採って渡しました。



陸軍兵卒小西吉太郎之墓・明治十年八月二日 大分県海部郡松尾山戦死

招魂所敵愾碑と岩崎氏

## 米水津の旧山田医院解体か

五月七日(土) 会員並川正明氏に同行して、米水津竹野浦にある旧山田医院を見学した。

明治の頃まで網元だった、蔵は改装され昭和二十年に医院を開業。母屋は寄棟一部入母屋造りで漆喰塗りごめの風格ある様式、大正五年・竹野浦大火で二十二軒焼失した後の建築か？



米水津竹野浦山田医院跡